



IT Automation

ホストグループ管理・メニュー作成
[実習編]

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

Exastro IT Automation Version 1.7.2
Exastro developer

目次

1. はじめに

1. [本書について](#)
2. [作業環境](#)
3. [シナリオ](#)

2. 実習 シナリオ①

[シナリオ① 全体図](#)

1. [事前準備](#)
2. [オペレーションの登録](#)
3. [Movementの設定](#)
4. [Conductorの作成](#)
5. [ホストグループの設定](#)
6. [メニューの管理](#)
7. [データ登録](#)
8. [代入値自動登録設定](#)
9. [代入値・作業対象ホストの確認](#)
10. [Conductorの実行](#)
11. [参照用パラメータシートの確認](#)

3. 実習 シナリオ②

[シナリオ② 全体図](#)

1. [オペレーションの登録](#)
2. [ホストグループへのホスト追加](#)
3. [データ登録](#)
4. [代入値・作業対象ホストの確認](#)
5. [Conductorの実行](#)

1. はじめに

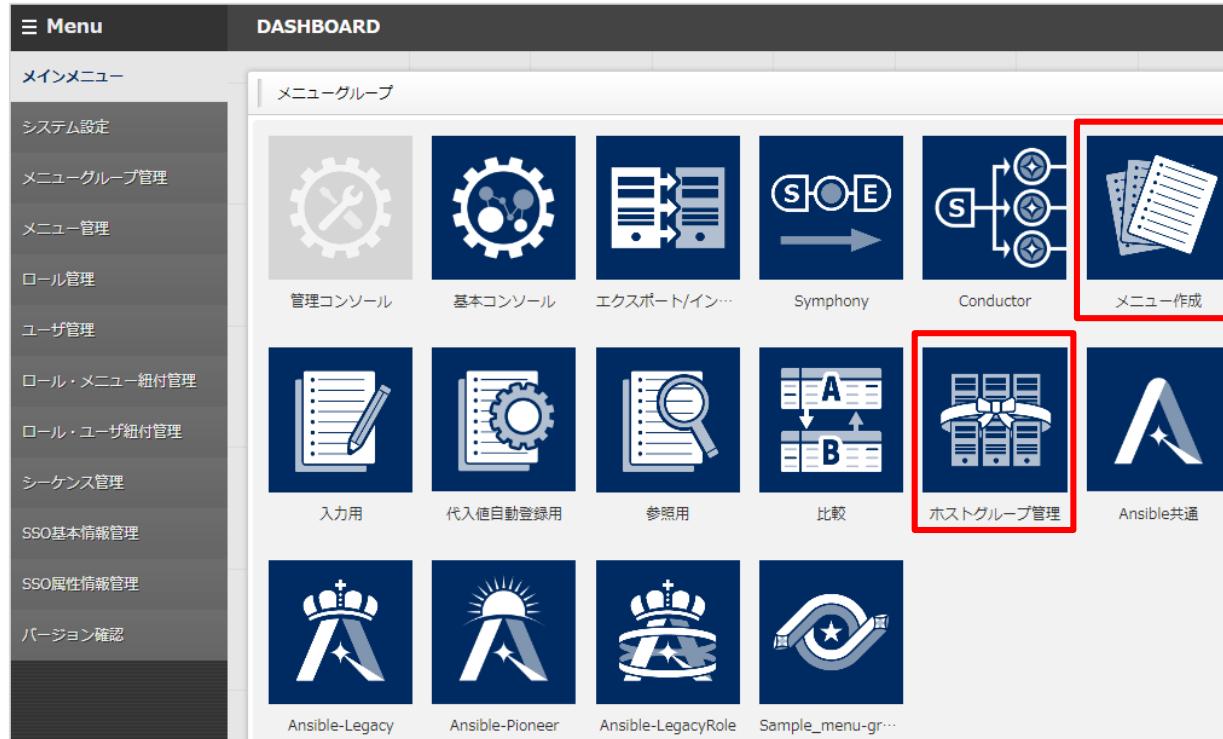


1.1 本書について

本書について

以下の機能について実習形式で作業を進め、理解を深めていただけます。
作業の実行には**Ansible-Legacy**を用います。

- ホストグループ管理
- メニュー作成



1.2 作業環境

作業環境

本書で使用する作業環境は以下の通りです。

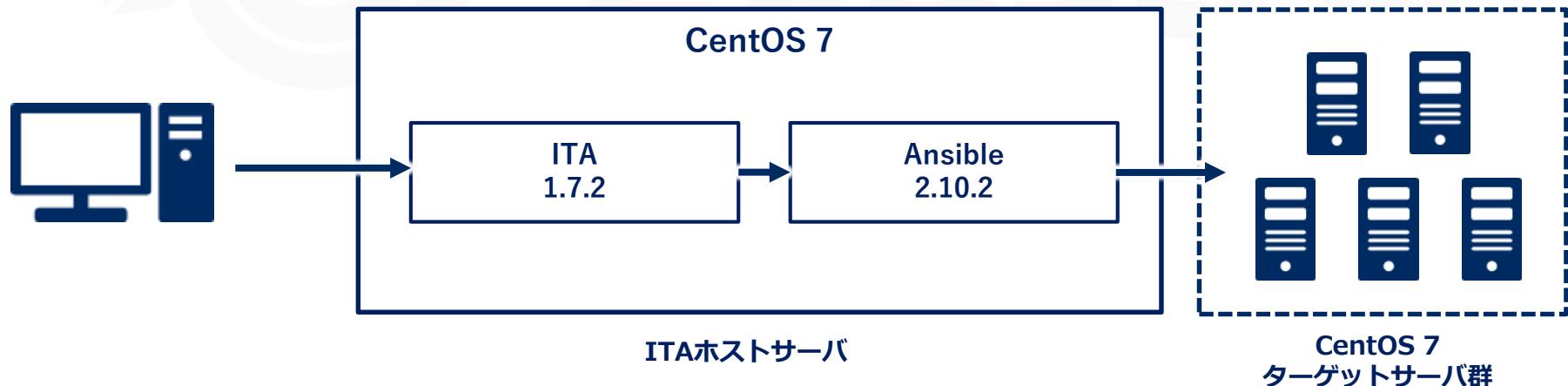
ITAホストサーバとは別に、作業のターゲットとなるサーバを**5台**(※1)ご用意ください。

ITAホストサーバ

- CentOS 7 (※2)
- ITA 1.7.2
- Ansible 2.10.2

ターゲット

- CentOS 7 (※3) … 5台



※1 ホストグループ機能の利便性を明確に体感するための台数であり、3~4台であってもシナリオは体験いただけます。

※2 今回はホストサーバーとしてCentOS7を利用致しますが、ITAはRHEL7系およびRHEL8系のOSで導入いただけます。

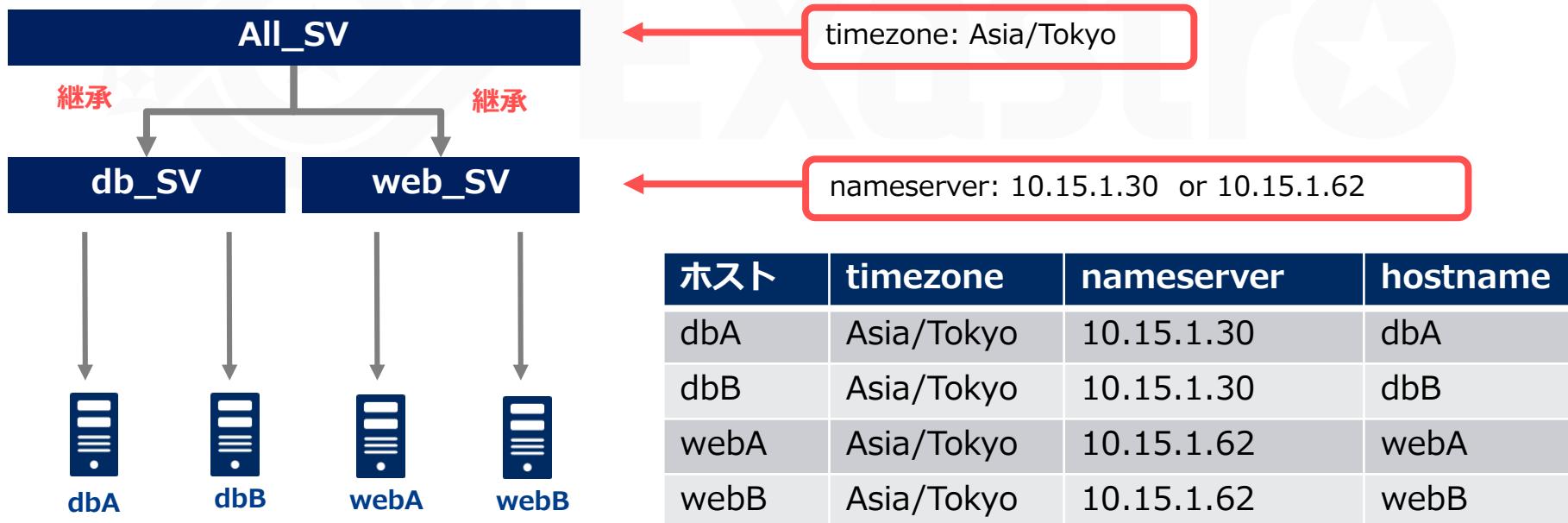
※3 Ansibleの動作対象となれるOSであれば、問題なく利用いただけます。

1.3 シナリオ (1/2)

シナリオ① サーバ全体に基本設定を行う

ホストグループ機能とメニュー作成機能を活用し、以下の作業を実施します。

- ① 親ホストグループ「All_SV」へ共通のタイムゾーンを設定する。
- ② 子ホストグループ「db_SV」「web_SV」別に異なるDNSサーバのIPアドレスを設定する。
- ③ ホストそれぞれに個別のホスト名を設定する。



1.3 シナリオ (2/2)

シナリオ② 追加したサーバにだけ作業を実行する

前項の作業後にサーバを追加する作業を想定します。

Playbookに属性等性がある場合であれば、

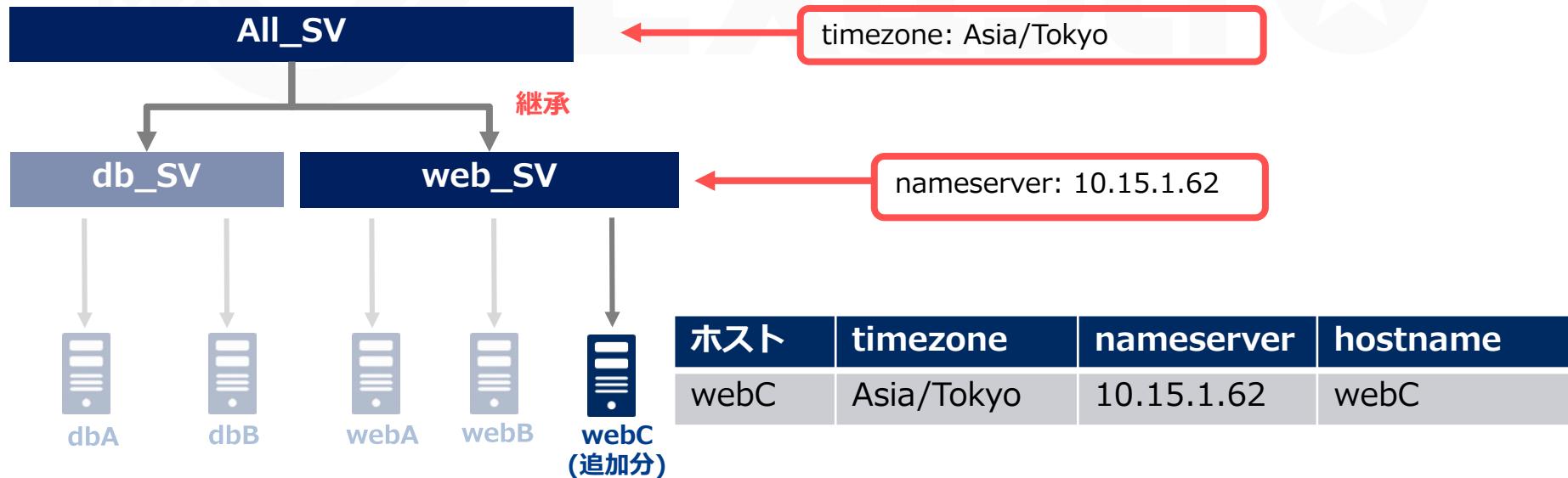
1)追加サーバをホストグループに追加し、2)同じ作業を実行するだけで設定が完了します。

しかしファイルに追記を行うものなど、属性等性のないPlaybookもあります。

これを同じホストに繰り返し適用した場合、余分な追記が行われるなどの不都合が生じます。

そのような状況を想定し、作業②では追加分のサーバにだけ作業を実行します。

実行するConductorの内容などは作業①と共通です。

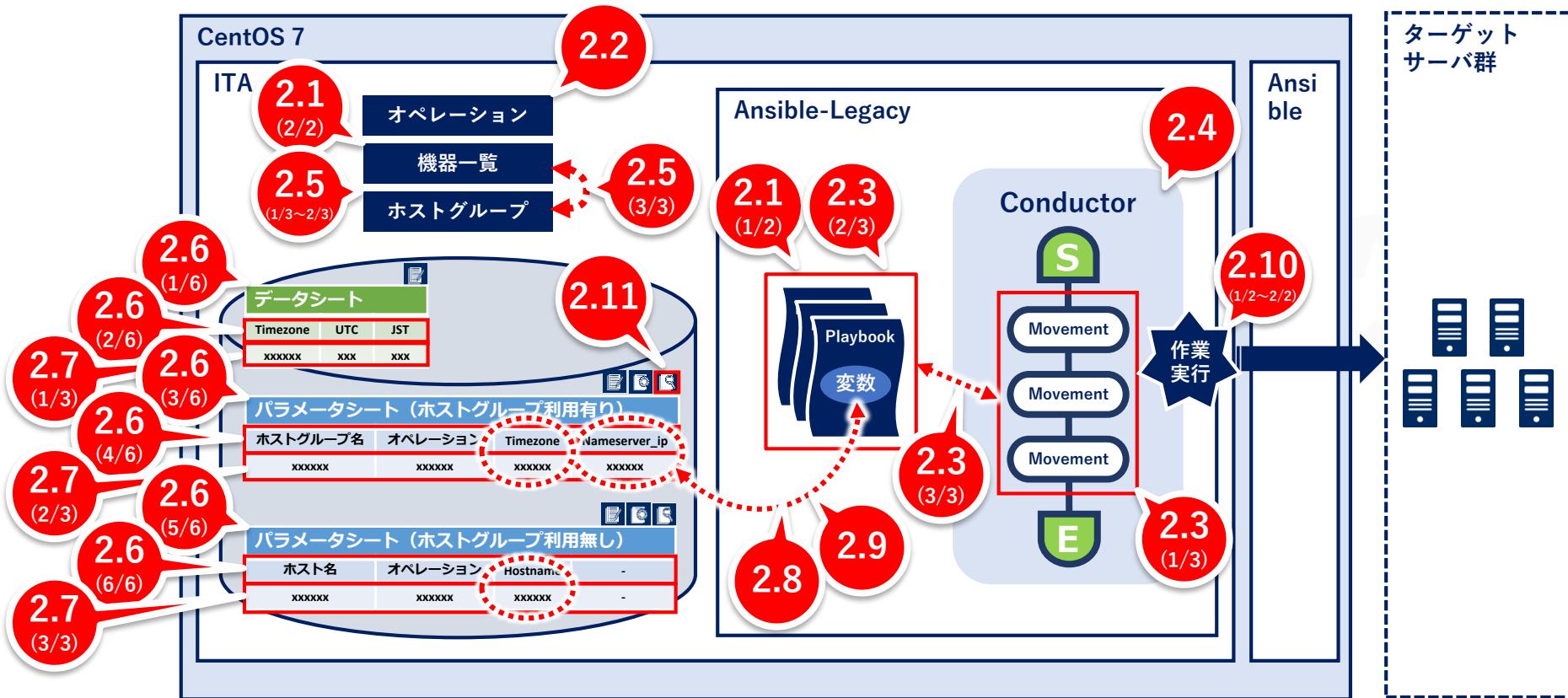


2. 実習 シナリオ①



シナリオ① 全体図

以下の図の流れで作業していきます。



2.1 事前準備 (1/2)

Playbookを作成する

本シナリオで使用するPlaybookは以下の3つです。

下記内容のファイルを作成して下さい。

【注意】文字コードは“UTF-8”、改行コードは“LF”、拡張子は“yml”で作成してください。

```
- name: Set Timezone
  timezone:
    name: "{{ VAR_locale_timezone }}"
```

ファイル名: 1-set_timezone.yml
タイムゾーンを指定の値に変更します。
今回は全ホスト共通の値を代入します。

```
- name: Add Nameserver
  shell: 'echo nameserver {{ VAR_nameserver_ip }} >>
/etc/resolv.conf'
```

ファイル名: 2-set_nameserver.yml
/etc/resolv.confへの追記を行います。
寡等性がないため、各ホストに一度だけ実行します。

```
- name: Set Hostname
  hostname:
    name: "{{ VAR_hostname }}"
```

ファイル名: 3-set_hostname.yml
ホスト名を変更します。
今回はホスト別の値を代入します。

2.1 事前準備 (2/2)

作業対象ホストを登録する

作業の実行対象となるホストをITAに登録しましょう。

今回の登録は5台分です。

※webCはシナリオ②で使用します。

メニュー：基本コンソール > 機器一覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

※*は必須項目です。

戻る 登録

	HW 機器種別	ホスト名	IPアドレス	ログイン ユーザID	管理	ログイン パスワード	認証方式
1台目	SV	webA	対象機器の IPアドレス	(任意の値を ご設定下さい)	●	(任意の値を ご設定下さい)	パスワード認証
2台目		webB					
3台目		dbA					
4台目		dBb					
5台目		webC					

2.2 オペレーションの登録

オペレーションを新規登録する

オペレーションを作成しましょう。

メニュー：基本コンソール > オペレーション一覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目へ下表のように入力し、[登録]を押下する。

登録

No.	オペレーションID	オペレーション名*	実施予定日時*	アクセス権
				設定 アクセス許可ロール
自動入力	自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>

※*は必須項目です。

オペレーション名	実施予定日時
基本設定 全台	(任意でご入力下さい)

※ 「実施予定日時」は管理用の項目です。自動的に処理が実行されるわけではありません。

2.3 Movementの設定 (1/3)

Movementを作成する

先のPlaybookを関連付けるMovementを登録しましょう。

メニュー : Ansible-Legacy > Movement一覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

MovementID	Movement名*	遅延タイマー	Ansible利用情報		
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	ホスト指定形式*	WinRM接続	ヘッダーセクション
			<input type="button" value="▼"/>	<input type="button" value="▼"/>	

※*は必須項目です。

Movement名	ホスト指定形式
Set Timezone	IP
Set Hostname	IP
Add Nameserver	IP

2.3 Movementの設定 (2/3)

Playbookを登録する

作成したPlaybookをITAに登録しましょう。

メニュー : **Ansible-Legacy > プレイブック素材集**

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② [参照] からプレイブックを選択し、「事前アップロード」を行う。
- ③ 各項目へ下表のように入力し、「登録」を押下する。

登録

素材ID	Playbook素材名*	Playbook素材*	アクセス権
自動入力	<input type="text"/>	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 指定されていません <input type="button" value="事前アップロード"/> アップロード状況:	設定 アクセス許可ロール

*は必須項目です。

プレイブック素材名	プレイブック素材
set_timezone	1-set_timezone.yml
add_nameserver	2-set_nameserver.yml
set_hostname	3-set_hostname.yml

2.3 Movementの設定 (3/3)

MovementにPlaybookを紐付ける

作成したMovementとプレイブック素材を関連付けましょう。

メニュー: Ansible-Legacy > Movement-Playbook紐付

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

紐付項目番	Movement*	Playbook素材*	インクルード順序*
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※*は必須項目です。

[戻る](#) [登録](#)

Movement	プレイブック素材	インクルード順序
Set Timezone	set_timezone	1
Add Nameserver	add_nameserver	1
Set Hostname	set_hostname	1

2.4 Conductorの作成

Conductorを作成する

定義したMovementをまとめたConductorを作成しましょう。

メニュー: Conductor > Conductorクラス編集

The screenshot shows the Exastro UI interface for creating a Conductor. On the left, there's a canvas where nodes are connected sequentially: Start (S) → Node 1 (Ansible Legacy Set Timezone) → Node 3 (Ansible Legacy Add Nameserver) → Node 2 (Ansible Legacy Set Hostname) → End (E). A red box highlights this sequence. On the right, the Conductor configuration pane is open, showing fields for Name (set to 'サーバ基本設定') and Movement (a list of four movements: Set Timezone, Set Hostname, Add Nameserver, and GatherFacts). A blue arrow points from the highlighted sequence on the canvas to the Movement list on the right.

1 Conductorの名称を入力する。
2 ドラッグ&ドロップで必要なMovementを追加する。
3 作業順にノード同士を繋ぐ。
4 [登録]を押下する。

Movement	作業順序
Set Timezone	1
Add Nameserver	2
Set Hostname	3

2.5 ホストグループの設定 (1/3)

ホストグループを定義する

始めにホストが所属するホストグループを作成しましょう。

メニュー：ホストグループ管理 > ホストグループ一覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

ホストグループID	ホストグループ名*	優先順位(大きい方が強い)*
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	<input type="text"/>	<input type="text"/>

ホストグループ名	優先順位
All_SV	1
web_SV	2
db_SV	3

2.5 ホストグループの設定 (2/3)

ホストグループ間の親子関係を定義する

ホストグループ間の親子関係を定義しましょう。

メニュー：ホストグループ管理 > ホストグループ親子紐付

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択し、[登録]を押下する。

登録

ホストグループ		
項目番号	親*	子*
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>

ホストグループ 親	ホストグループ 子
All_SV	db_SV
All_SV	web_SV

イメージ



2.5 ホストグループの設定 (3/3)

【ホストグループへホストを登録する

作成したホストグループに対して、ターゲットホストを紐付けましょう。

メニュー：ホストグループ管理 > ホスト紐付管理

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択し、[登録]を押下する。

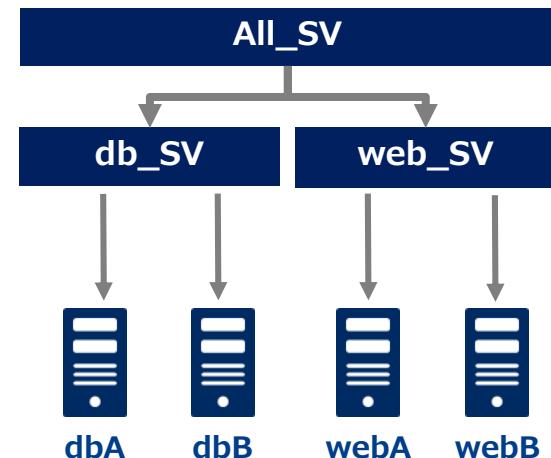
登録

項目番号	ホストグループ名*	オペレーション	ホスト名*
自動入力			

*は必須項目です。

ホストグループ名	オペレーション	ホスト名
db_SV	基本設定 全台	dbA
db_SV	基本設定 全台	dbB
web_SV	基本設定 全台	webA
web_SV	基本設定 全台	webB

イメージ



2.6 メニューの管理 (1/6)

データシートを作成する

データシートを作成しましょう。

このデータシートに登録した値が、後ほどプルダウン選択の選択肢となります。

メニュー: メニュー作成 > メニュー定義/作成

- ① 各項目へ下表のように入力する。
- ② [対象メニューグループ]はデフォルトの「入力用」にしておきます。

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト

メニュー作成情報

基本情報 :

項目番号 : 51

メニュー名* : タイムゾーン一覧

作成対象 : データシート

表示順序* : 1

最終更新日時 : 2021-06-07 15:01:27

最終更新者 : システム管理者

対象メニューグループ

入力用* : 入力用

対象メニューグループ

アクセス許可ロール

ロール :

アクセス許可ロール選択

説明

項目名	入力内容
メニュー名	タイムゾーン一覧
作成対象	データシート
表示順序	1

2.6 メニューの管理 (2/6)

データシートの項目名を定義する

前項に続き、シートの項目を定義していきましょう。

- ③ [項目]を押下し、項目を2つ追加する。
- ④ 各項目について、下表のように入力する。
- ⑤ 画面下部の[作成]を押下する。

The screenshot shows the 'Item Definition' screen with a red box highlighting the '項目' tab at the top. Below it, there are three items under the 'Timezone' category, each with a red box around its configuration. Item 1: 'Timezone' (Type: Single-line string, Max bytes: 32, Required: checked, Unique constraint: checked). Item 2: 'UTC' (Type: Single-line string, Max bytes: 32, Required: unchecked, Unique constraint: unchecked). Item 3: 'JST' (Type: Single-line string, Max bytes: 32, Required: unchecked, Unique constraint: unchecked). Each item has a 'Description' and 'Remarks' section below it.

The screenshot shows the 'Preview' screen with a red box around the '作成' (Create) button at the bottom. A blue circle with the number 5 points to this button. The preview table lists three operations:

No	ホスト名	オペレーション名	基準日時	実施予定日	最終実行日
1	192.168.0.1	オペレーション	2020/01/01 00:00	2020/01/01 00:00	
2	192.168.0.1	オペレーション	2020/01/01 00:00	2020/01/01 00:00	
3	192.168.0.1	オペレーション	2020/01/01 00:00	2020/01/01 00:00	

The screenshot shows a table with columns: 項目名 (Item Name), 入力方式 (Input Method), 最大バイト数 (Max bytes), 必須 (Required), and 一意制約 (Unique constraint). The data is as follows:

項目名	入力方式	最大バイト数	必須	一意制約
Timezone	文字列(單一行)	32	✓	✓
UTC	文字列(單一行)	32	-	-
JST	文字列(單一行)	32	-	-

2.6 メニューの管理 (3/6)

ホストグループ利用有りのメニューを作成する

ホストグループ用のパラメータシートを作成し、
ホストグループに適用するパラメータを管理しましょう。

メニュー: メニュー作成 > メニュー定義/作成

- ① 「基本情報」各項目へ下表のように入力する。
- ② [対象メニュー群]はデフォルトの「入力用」「代入値自動登録用」「参照用」にしておきます。

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト

メニュー作成情報

基本情報 :

項目番号 : 自動入力

メニュー名*: サーバ用パラメータ

作成対象 : パラメータシート (ホスト/オペレーション)

表示順序*: 1

ホストグループ利用 : 利用する

複数メニュー利用 (?:) : 利用する

最終更新日時 : 自動入力

最終更新者 : 自動入力

対象メニュー群 :

入力用*: 入力用

代入値自動登録用*: 代入値自動登録用

参照用*: 参照用

対象メニュー群



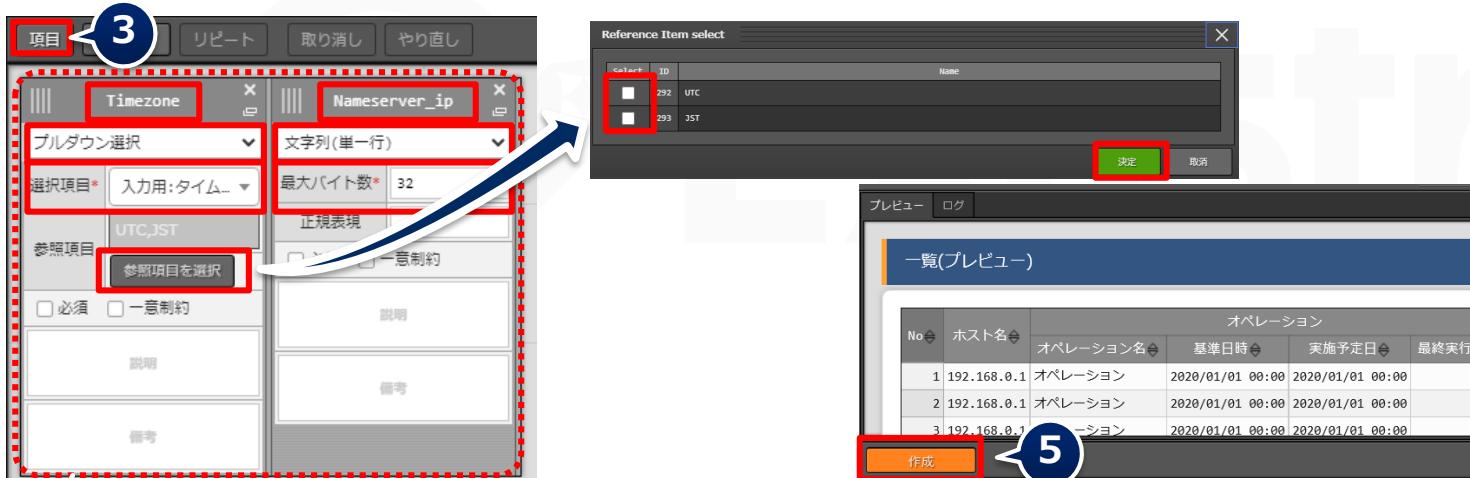
項目名	入力内容
メニュー名	サーバ用パラメータ
作成対象	パラメータシート (ホスト/オペレーションあり)
表示順序	1
ホストグループ利用	✓

2.6 メニューの管理 (4/6)

パラメータシートの項目名を定義する

前項に続き、シートの項目を定義していきましょう。

- ③ [項目]を押下し、新しい項目を追加する。
- ④ 各項目について、下表のように入力する。
- ⑤ 画面下部の[作成]を押下する。



項目名	入力方式	選択項目	参照項目
Timezone	プルダウン選択	入力用:タイムゾーン一覧:パラメータ/Timezone	UTC、JST
項目名	入力方式	最大バイト数	
Nameserver_ip	文字列(單一行)	32	

2.6 メニューの管理 (5/6)

ホストグループ利用無しのメニューを作成する

ホスト用のパラメータシートを作成し、
ターゲットホストに適用するパラメータを管理しましょう。

メニュー：メニュー作成 > メニュー定義/作成

- ① 「基本情報」各項目へ下表のように入力する。
- ② [対象メニュー群]はデフォルトの「入力用」「代入値自動登録用」「参照用」にしておきます。

The screenshot shows the 'Menu Creation Information' screen. It includes fields for 'Menu Name' (Host Name), 'Creation Target' (Parameter Sheet (Host/Operation)), and 'Display Order' (1). Below these, there are sections for 'Host Group Utilization' (Input Use) and 'Submenu Utilization' (Input Use). At the bottom, there are sections for 'Target Menu Group' with options for 'Input Use', 'Automatic Registration Use', and 'Reference Use'.



項目名	入力内容
メニュー名	ホスト名
作成対象	パラメータシート (ホスト/オペレーションあり)
表示順序	1

2.6 メニューの管理 (6/6)

パラメータシートの項目名を定義する

前項に続き、シートの項目を定義していきましょう。

- ③ [項目]を押下し、新しい項目を追加する。
- ④ 各項目について、下表のように入力する。
- ⑤ 画面下部の[作成]を押下する。



項目名	入力方式	最大バイト数
Hostname	文字列(單一行)	32



2.7 データ登録 (1/3)

データシートにデータを登録する

データシートとパラメータシートが作成されました。

作成したメニューに移動し、データを入力していきましょう。

メニュー: 入力用> タイムゾーン一覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録 △閉じる

No	Timezone*	UTC	JST	アクセス権 設定	アクセス許可ロール	備考	最終更新日時	最終更新者
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	設定		<input type="text"/>	自動入力	自動入力

*★は必須項目です。

戻る 登録

Timezone	UTC	JST
Asia/Tokyo	+9	0
America/New_York	-4	-13

2.7 データ登録 (2/3)

パラメータシートにデータを登録する

ホストグループ利用有りのメニューに、データを入力していきましょう。

メニュー: 入力用> サーバ用パラメータ

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

No	ホスト名/ホストグループ名	オペレーション	パラメータ	Timezone	Nameserver_ip
自動入力	<input type="text"/>				

※*は必須項目です。

Point

前項でデータシートに入力した内容から選択できます。

登録後、参照項目の UTCとJSTが確認できます。

一覧/更新

履歴	更新	廃止	No	最終実行日時	Timezone	UTC	JST	Nameserver_ip
履歴	更新	廃止	1	33	Asia/Tokyo	+9	0	10.15.1.30
履歴	更新	廃止	2	33	Asia/Tokyo	+9	0	10.15.1.30
履歴	更新	廃止	3	33	Asia/Tokyo	+9	0	10.15.1.62

ホスト名/ホストグループ名	オペレーション	Timezone	Nameserver_ip
[HG]All_SV	基本設定 全台	Asia/Tokyo	10.15.1.30
[HG]db_SV	基本設定 全台	Asia/Tokyo	10.15.1.30
[HG]web_SV	基本設定 全台	Asia/Tokyo	10.15.1.62

2.7 データ登録 (3/3)

■ パラメータシートにデータを登録する

ホストグループ利用無しのメニューに、データを入力していきましょう。

メニュー:メニュー: 入力用> ホスト名

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ
自動入力			Hostname

ホスト名	オペレーション	Hostname
dbA	基本設定 全台	dbA
dB	基本設定 全台	dB
webA	基本設定 全台	webA
webB	基本設定 全台	webB

2.8 代入値自動登録設定

代入値自動登録設定を行う

データシートとパラメータシートの入力が終わったところで、各項目と変数を関連付けていきましょう。

メニュー: Ansible-Legacy > 代入値自動登録設定

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

The screenshot shows the 'Import Value Registration Setting' screen. It has two main sections: 'From' and 'To'. The 'From' section contains fields for 'Parameter Sheet (From)' (menu group and item), 'Registration Method' (Movement), and 'IaC Variable (To)' (key name, variable name). The 'To' section contains fields for 'Value Variable (To)' (movement name, value name). A note at the bottom says '※*は必須項目です'.

パラメータシート (From) メニュー	パラメータシート (From) 項目	登録方式	IaC変数 (To) Movement	IaC変数 (To) Value変数 変数名
サーバ用パラメータ	Timezone	Value型	Set Timezone	VAR_locale_timezone
サーバ用パラメータ	Nameserver_ip	Value型	Add Nameserver	VAR_nameserver_ip
ホスト名	Hostname	Value型	Set Hostname	VAR_hostname

2.9 代入値・作業対象ホストの確認

代入値と作業対象ホストを確認する

代入値自動登録により指定された値と対象ホストを確認しましょう。

メニュー: Ansible-Legacy >作業対象ホスト/代入値管理

- ① [フィルタ]を押下する
- ② 「legacy代入値自動登録設定プロシージャ」によって正しい値が指定されていることを確認する。

履歴	更新	廃止	項目	オペレーション	Movement	ホスト	代入値管理	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	36	11: 基本設定 全台	1:Set_Timezone	1:webA	代入値管理	2020/09/25 19:02:31	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	37	11: 基本設定 全台	1:Set_Timezone	3:dbA	代入値管理	2020/09/25 19:02:31	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	44	11: 基本設定 全台	1:Set_Timezone	4:webB	代入値管理	2020/10/01 13:26:10	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	46	11: 基本設定 全台	1:Set_Timezone	5:dbB	代入値管理	2020/10/01 13:26:44	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	39	11: 基本設定 全台	3:Add_Nameserver	1:webA	代入値管理	2020/09/25 19:02:53	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	40	11: 基本設定 全台	3:Add_Nameserver	3:dbA	代入値管理	2020/09/25 19:02:53	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	45	11: 基本設定 全台	3:Add_Nameserver	4:webB	代入値管理	2020/10/01 13:26:10	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	47	11: 基本設定 全台	3:Add_Nameserver	5:dbB	代入値管理	2020/10/01 13:26:44	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	41	11: 基本設定 全台	2:Set_Hostname	1:webA	代入値管理	2020/09/25 19:06:46	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	42	11: 基本設定 全台	2:Set_Hostname	4:webB	代入値管理	2020/09/25 19:06:46	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	43	11: 基本設定 全台	2:Set_Hostname	3:dbA	代入値管理	2020/09/25 19:06:57	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	52	11: 基本設定 全台	2:Set_Hostname	5:dbB	代入値管理	2020/10/01 13:40:22	legacy代入値自動登録設定プロシージャ

作業対象ホスト

履歴	更新	廃止	項目	オペレーション	Movement	ホスト	変数名	Sensitive設定	具体値	代入順序	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	69	11: 基本設定 全台	18:Set_Timezone	1:webA	16:VAR_lcal_timezone	OFF	Asia/Tokyo		2020/09/25 19:02:31	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	70	11: 基本設定 全台	18:Set_Timezone	3:dbA	16:VAR_lcal_timezone	OFF	Asia/Tokyo		2020/10/01 13:39:14	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	77	11: 基本設定 全台	18:Set_Timezone	4:webB	16:VAR_lcal_timezone	OFF	Asia/Tokyo		2020/10/01 13:26:10	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	81	11: 基本設定 全台	18:Set_Timezone	5:dbB	16:VAR_lcal_timezone	OFF	Asia/Tokyo		2020/10/01 13:39:14	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	74	11: 基本設定 全台	21:Set_Hostname	1:webA	20:VAR_hostname	OFF	webA		2020/09/25 19:06:46	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	75	11: 基本設定 全台	21:Set_Hostname	4:webB	20:VAR_hostname	OFF	webB		2020/09/25 19:06:46	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	76	11: 基本設定 全台	21:Set_Hostname	3:dbA	20:VAR_hostname	OFF	dbA		2020/09/25 19:06:57	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	85	11: 基本設定 全台	21:Set_Hostname	5:dbB	20:VAR_hostname	OFF	dbB		2020/10/01 13:40:22	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	72	11: 基本設定 全台	20>Add_nameserver	1:webA	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.62		2020/10/01 13:39:48	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	73	11: 基本設定 全台	20>Add_nameserver	3:dbA	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.30		2020/10/01 13:39:14	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	78	11: 基本設定 全台	20>Add_nameserver	4:webB	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.62		2020/10/01 13:39:48	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	82	11: 基本設定 全台	20>Add_nameserver	5:dbB	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.30		2020/10/01 13:39:14	legacy代入値自動登録設定プロシージャ

代入値管理

2.10 Conductorの実行 (1/2)

Conductorを実行する

前項までの操作で、Conductorの作成と代入値の登録が終了しました。
最後にConductorを実行し、結果を対象ホストで確認してください。

メニュー：Conductor > Conductor作業実行

1 Conductor一覧から「サーバ基本設定」を選択する。

2 オペレーション「基本設定 全台」を選択する。

3 画面下部より、[実行]を押下する。

Tips
実行後、自動で【Conductor作業確認】へ画面遷移します。

The screenshot shows the 'Conductor' menu selected in the top navigation bar. The 'Conductor[一覧]' tab is active, displaying a list of conductors. A callout '1' points to the first item in the list, '1 サーバ基本設定'. Below this is another window titled 'オペレーション[一覧]' showing a list of operations. A callout '2' points to the first item in this list, '5 基本設定 全台'. At the bottom of the screen, there is a large red button labeled '実行' (Execute), which is highlighted by a callout '3'.

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
<input checked="" type="radio"/>	1	サーバ基本設定		読み込み		2021/06/07 14:41:29	システム管理者
<input type="radio"/>	2	GatherFacts		読み込み		2021/06/10 10:28:17	システム管理者

選択	No. □	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
<input checked="" type="radio"/>	5	5	基本設定 全台	2021/06/07 14:33		読み込み		2021/06/07 14:33:17	システム管理者
<input type="radio"/>	6	6	GatherFacts1	2021/06/10 09:56	2021/06/10 10:34	読み込み		2021/06/10 10:34:09	legacy/作業実行プロシージャ
<input type="radio"/>	7	7	基本設定 追加サーバのみ	2021/06/10 11:56		読み込み		2021/06/10 11:56:26	システム管理者

2.10 Conductorの実行 (2/2)

Conductorの実行結果を確認する

作業確認画面では、全体およびノードごとの実行結果を確認できます。

投入したMovementを選択すると、**詳細結果へのリンク**を表示できます。「DONE」「ERROR」などの丸い部分を押下しても詳細結果へリンクできます。

メニュー：Conductor > Conductor作業確認

The screenshot shows the 'Conductor Task Confirmation' interface. On the left, a horizontal workflow is displayed with several nodes: 'Conductor Start' (S), 'Ansible Legacy Set Timezone', 'Ansible Legacy Add nameserver', 'Ansible Legacy Set Hostname', and 'Conductor End'. Each node has an 'IN' port on the left and an 'OUT' port on the right, with a small green circle labeled 'DONE' in the center. A callout bubble labeled '1' points to the 'Ansible Legacy Set Timezone' node with the text '確認したいノードを選択する。' (Select the node you want to check). On the right, a detailed view of the selected node is shown in a panel titled 'Node'. The node type is 'movement', instance ID is 175, name is 'node-3', status is '正常終了' (Normal Completion), start time is '2020/10/01 06:46:44', end time is '2020/10/01 06:47:18', and operation status is '作業状態確認' (Work status confirmation). A red box highlights this panel. A callout bubble labeled '2' points to the panel with the text 'リンクや作業の情報が表示される。' (Links and job information are displayed). At the bottom left, there is a 'ログ' (Log) section and a '緊急停止' (Emergency Stop) button.

2.11 参照用パラメータシートの確認

参照用パラメータシートの内容を確認する

前項までの操作により、設定したパラメータをターゲットホストに適用できました。

最後に参照用パラメータシートを確認し、実行日時などが記録されたことを確認しましょう。

メニュー：参照用 > サーバ用パラメータ

- ① [フィルタ]を押下する。
- ② 「基準日時」や「最終実行日時」が更新されていることを確認する。

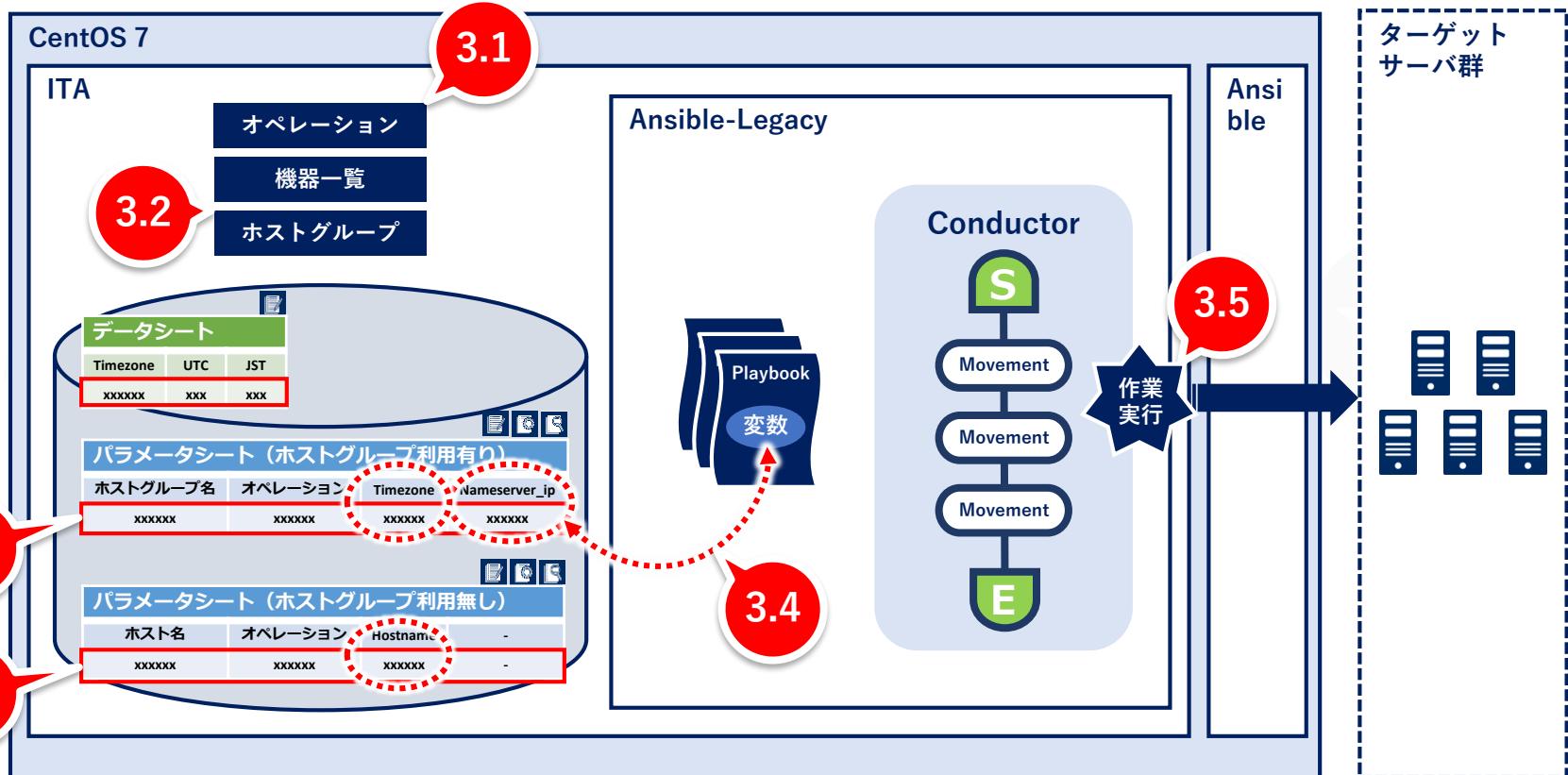
履歴	No	ホスト名	オペレーション				パラメータ			最終更新日時	最終更新者	
			ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	Timezone	UTC	JST		
履歴	2	webA	11	基本設定 全台	2020/10/01 06:47	2020/09/29 19:30	2020/10/01 06:47	Asia/Tokyo	+9	0	2020/10/01 13:39:41	ホストグループ分解機能
履歴	3	dbA	11	基本設定 全台	2020/10/01 06:47	2020/09/29 19:30	2020/10/01 06:47	Asia/Tokyo	+9	0	2020/10/01 13:39:09	ホストグループ分解機能
履歴	4	webB	11	基本設定 全台	2020/10/01 06:47	2020/09/29 19:30	2020/10/01 06:47	Asia/Tokyo	+9	0	2020/10/01 13:39:41	ホストグループ分解機能
履歴	6	dBb	11	基本設定 全台	2020/10/01 06:47	2020/09/29 19:30	2020/10/01 06:47	Asia/Tokyo	+9	0	2020/10/01 13:39:09	ホストグループ分解機能

3. 実習 シナリオ②



シナリオ② 全体図

以下の図の流れで作業していきます。



3.1 オペレーションの登録

オペレーションを新規登録する

追加のオペレーションを作成しましょう。

メニュー：基本コンソール > 投入オペレーション一覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目へ下表のように入力し、[登録]を押下する。

登録

No.	オペレーションID	オペレーション名*	実施予定日時*
自動入力	自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>

*は必須項目です。

[戻る](#) [登録](#)

オペレーション名	実施予定日時
基本設定 追加サーバのみ	(任意でご入力下さい)

※ 「実施予定日時」は管理用の項目です。自動的に処理が実行されるわけではありません。

3.2 ホストグループへのホスト追加

ホストグループへホストを登録する

追加のホストをホストグループに登録しましょう。

メニュー：ホストグループ管理 > ホスト紐付管理

- ① 【新規登録】登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択し、[登録]を押下する。

登録

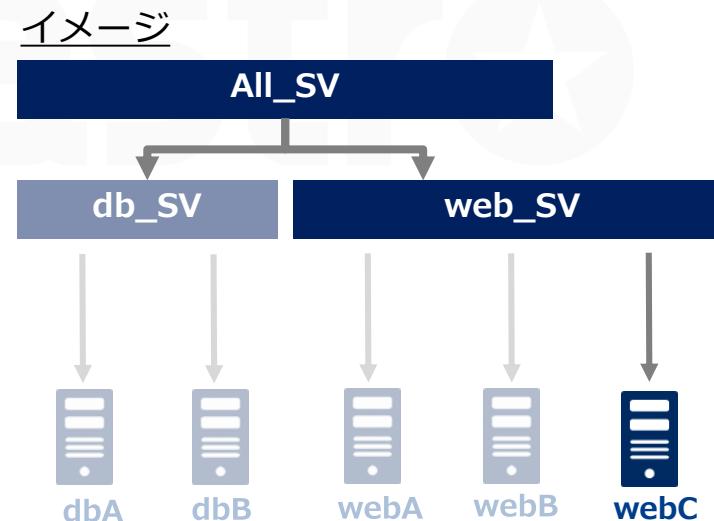
項目番号 自動入力	ホストグループ名*	オペレーション	ホスト名*

* *は必須項目です。

ホストグループ名	オペレーション	ホスト名
web_SV	基本設定 追加サーバのみ	webC

Point

ホストグループ「web_SV」はオペレーション「基本設定全台」でも使用しましたが、今回追加する分はオペレーション「基本設定 追加サーバのみ」とするので、作業実行時はwebCだけが作業対象となります。



3.3 データ登録 (1/2)

■ パラメータシートにデータを登録する

シナリオ①で作成したメニューに移動し、データを入力していきましょう。

メニュー: 入力用> サーバ用パラメータ

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

No	ホスト名/ホストグループ名*	オペレーション	パラメータ	Nameserver_ip
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

ホスト名/ホストグループ名	オペレーション	Timezone	Nameserver_ip
[HG]web_SV	基本設定 追加サーバのみ	Asia/Tokyo	10.15.1.62

3.3 データ登録 (2/2)

パラメータシートにデータを登録する

追加するホスト名のデータを登録しましょう。

メニュー: 入力用> ホスト名

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。

登録

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

ホスト名	オペレーション	Hostname
webC	基本設定 追加サーバのみ	webC

3.4 代入値・作業対象ホストの確認

代入値と作業対象ホストを確認する

代入値自動登録により指定された値と対象ホストを確認しましょう。

メニュー: **Ansible-Legacy > 作業対象ホスト/代入値管理**

- ① [フィルタ]を押下する
- ② 「legacy代入値自動登録設定プロシージャ」によって「webC」のデータだけが追加されていることを確認する。

作業対象ホスト

履歴	更新	廃止	項目番号	オペレーション	Movement	ホスト	備考	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	70	13:基本設定 追加サーバのみ	3:Add_Nameserver	6:webC		2020/10/01 14:44:49	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	67	13:基本設定 追加サーバのみ	1:Set_Timezone	6:webC		2020/10/01 14:44:49	legacy代入値自動登録設定プロシージャ

代入値管理

履歴	更新	廃止	項目番号	オペレーション	Movement	ホスト	変数名	Sensitive設定	具体値	代入順序	備考	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	103	13:基本設定 追加サーバのみ	20:Add_nameserver	6:webC	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.62			2020/10/01 14:44:49	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	102	13:基本設定 追加サーバのみ	18:Set_Timezone	6:webC	16:VAR_lcale_timezone	OFF	Asia/Tokyo			2020/10/01 14:44:49	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	97	12:基本設定 全台	20:Add_nameserver	5:dbB	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.30			2020/10/01 14:44:27	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	96	12:基本設定 全台	18:Set_Timezone	5:dbB	16:VAR_lcale_timezone	OFF	Asia/Tokyo			2020/10/01 14:44:27	legacy代入値自動登録設定プロシージャ
履歴	更新	廃止	95	12:基本設定 全台	20:Add_nameserver	3:dba	23:VAR_nameserver_ip	OFF	10.15.1.30			2020/10/01 14:44:27	legacy代入値自動登録設定プロシージャ

3.5 Conductorの実行

Conductorを実行する

再度Conductorを実行し、
作業がホスト「webC」にだけ反映されたことを確認してください。

メニュー : Conductor > Conductor作業実行

Menu
メインメニュー
Conductorインターフェース情報
Conductorクラスター一覧
Conductorクラス転集
Conductor作業実行
Conductor作業確認
Conductor作業一覧
Conductor定期作業実行

Conductor一覧から
「サーバ基本設定」を選択する。

1

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
<input checked="" type="radio"/>	1	サーバ(基本設定)		アクセス権		2021/06/07 14:41:29	システム管理者
<input type="radio"/>	2	GatherFacts		アクセス権		2021/06/10 10:28:17	システム管理者

オペレーション[フィルタ]

オペレーション[一覧]

2

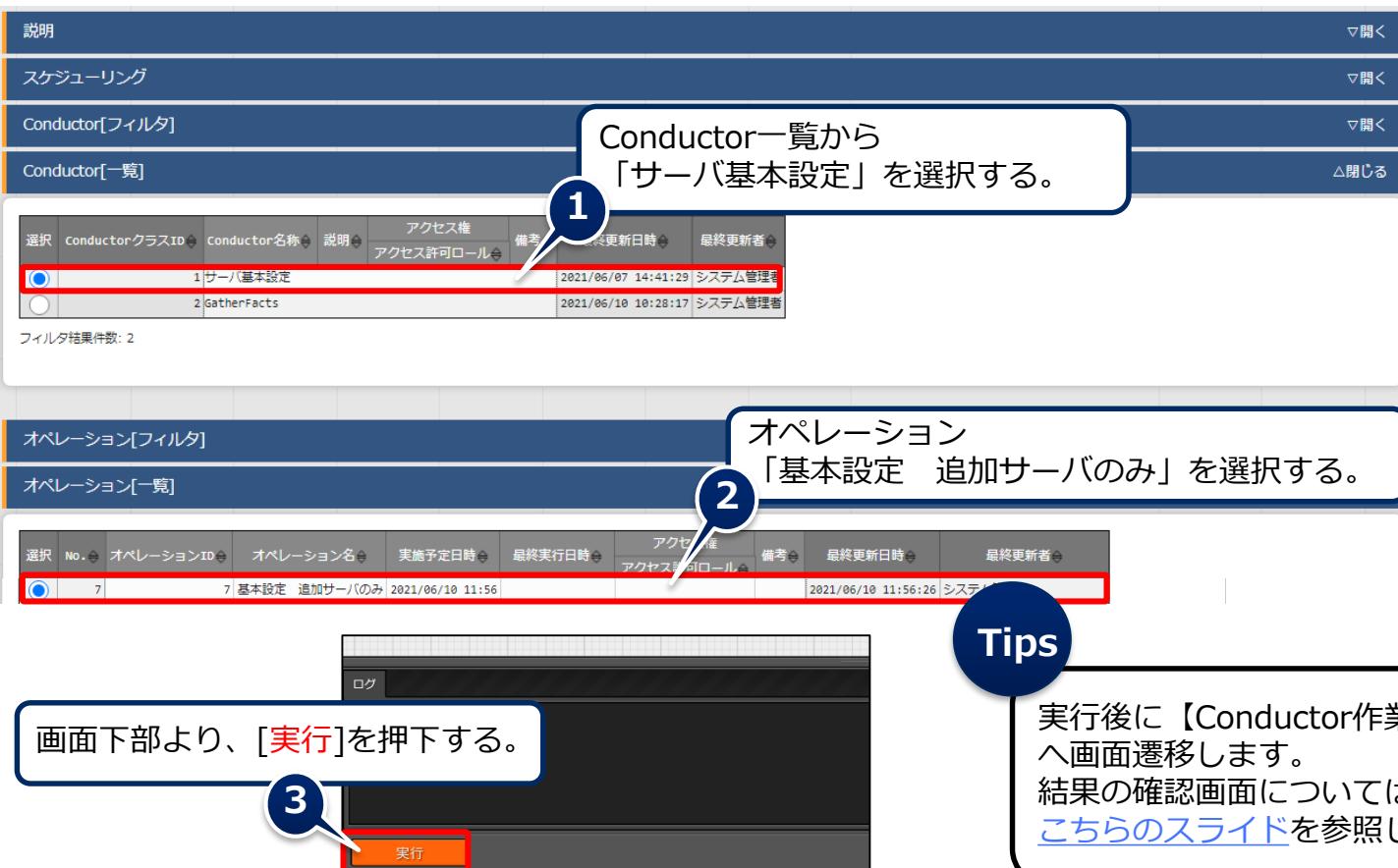
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
<input checked="" type="radio"/>	7	7	基本設定 追加サーバのみ	2021/06/10 11:56		アクセス権	アクセス権	2021/06/10 11:56:26	システム管理者

画面下部より、[実行]を押下する。

3

実行後に【Conductor作業確認】
へ画面遷移します。
結果の確認画面については、先ほどの
[こちらのスライド](#)を参照してください

Tips





Exastro